

平成 29 年度 教育センター運営委員会議事録（概要）

○開催日時 平成 30 年 2 月 9 日（金）午前 9 時 30 分から午前 11 時 15 分

○出席者：小野寺委員、廣川委員、齋藤委員、中嶋委員、阿部委員、佐藤委員、稲葉委員、小黒委員、山崎(謙徳)委員、阪田委員、山崎(智史)委員代理小林教頭 以上 11 人（順不同）

○事務局：本間柏崎市教育長、小林刈羽村教育長、小林所長、古川副所長、中村副所長、田村情報教育主事、渥美協力員、庭山専任所員、丸山研究助手、以上 9 人

【会議概要】

開 会 本間柏崎市教育長挨拶
小林刈羽村教育長挨拶

自己紹介：各委員が自己紹介。事務局員も自己紹介を行った。

正副委員長の選出：事務局案を提出。委員長に柏崎小学校の中嶋校長、副委員長に比角小学校の阿部校長を推薦。（全会異議なし）

委員長：協議事項はなし。平成 29 年度事業の報告を事務局説明願います。

I・II 今年度の事業運営・実績報告について要項により説明を行った。

- ① 教育研究班……………古川副所長
 - ・ 情報教育……………田村情報教育主事
 - ・ 科学技術教育……………渥美協力員
- ② 教育相談係……………中村副所長
- III 平成 30 年度の運営組織について……………小林所長
- IV 平成 30 年度の事業概要について……………各担当から

<質 疑>

【教育研究班（教職員研修、情報教育）】

事務局：情報モラルは情報教育推進の光と影の部分。今の活動をさらに支援していきたい。

【科学技術教育センター】

A 委員：子どもたちが自然に触れ合うことはよいと思うが、教職員がそれにかかわる時間がなかなかない。支援がありがたい。継続をお願いしたい。フィールドワークをする先生方が少なくなっている。先生方が自然に親しむ機会を提供できればと考えている。提携をお願いしたい。

B 委員：科学の祭典ではいつもお世話になっている。小学校の先生を見ると、理系のことに自信がないという傾向を感じる。子どもたちは科学の祭典に毎回来てくれて、長い時間楽しんでい。科学の祭典の実験内容は理科専門の先生でなくとも教えられる内容であるから、若手の先生に参加してもらうことで。大学としても支援は惜しまない。

事務局：平成 30 年度に県理科センター連絡協議会で、全県の小学校先生対象にアンケートを計画している。理科離れの現状把握、理科センターに求めていることの実態把握をする予定になっている。全県、また柏刈の傾向を把握し、今後の運営に反映していきたいので、ご協力をお願い

したい。

事務局：20代の柏刈の教職員は、みんな科学の祭典に参加するくらいの声掛けをして特に若い教職員を育てていきたいと思います。

C委員：働き方改革が叫ばれる中、土曜日に行かなければいけないということはいかがかなと思う。理科だけではなく、他の教科でも依頼があり負担になっている。地域の保護者や専門家などを積極的に入れるなど、学校の先生ばかりに頼るのではなく、真剣な見直しが必要と考える。それがひいては学校の改革につながると考える。

事務局：理科の先生も他の先生もだれもが参加したくなるような内容の改革も必要だと感じている。

A委員：地域コーディネーターとの連携が大切だと考える。親子活動などにも自然体験を取り入れることで理科離れを防ぐなど、様々な場面を活用していくことが有効。

【教育相談】

D委員：学校訪問相談などで第三者の意見を聞ける機会があり非常に助かっている。SST(ソーシャルスキルトレーニング)参加児童の情報共有などで教育相談員と学校担任との連携の必要を感じている。SSTでの様子など簡単な文書で提供いただけるとありがたい。

事務局：現在は、保護者の同意を得たうえで参加状況を学校に情報提供している。文書での情報提供は現時点では難しいが、より密な連携を来年以降検討していきたい。

E委員：SSTやPSP(ペアレントサポートプログラム)の効果などについての外部評価やアンケート、保護者からの声などがあれば教えていただきたい。

事務局：PSPでは参加者対象に毎回アンケートを行っている。一部、若いスタッフが行った回で意見もあったが、全体としては気づきがあった、実践して役立った、などおおむね好評である。SSTについては、保護者の反応はおおむね好評である。

C委員：不登校は問題行動からはずし、学校復帰が全てではないという考え方に変わっており、文書としても出ている。子どもそれぞれが持っているものを伸ばしていける支援に変わってきている。その考え方を入れていく必要がある。

事務局：まさにその通りである。教育委員会単独での支援だけでは難しく、多くの機関の連携が必須である。そのための機構改革をする予定である。また、大人の引きこもりの問題もあり、福祉、医療との連携が必要である。機構改革を第一歩として試行錯誤していきたい。

C委員：60歳までを対象とするのであれば、小中学生の保護者も年齢的には入る。養育力が不足している保護者もあり、支援してもらえないか。

事務局：ひきこもり支援センターを開設することになった。問題を抱える保護者の居場所づくりを通して保護者の教育を担ったり、当事者の居場所づくりなどを考えている。

事務局：保護者の心情として、学校に行ってほしいという気持ちがある。相談の中でその保護者の気持ちに寄り添っていききたい。子どもたちも、発達の問題、心の過敏性、学校との相性など様々な原因がある。その中で多くの目で子どもを見守りながら、大人が焦らず支援することが大事と感じている。

E委員：3歳までお子さんをもつ保護者を対象としたNP講座を開催している。参加する保護者は意識の高い方が多い。

<拍手により承認>

Ⅲ平成30年度の運営組織について

- ・資料により新年度からの機構改革を中心に説明。

Ⅳ平成30年度の事業概要について

F委員：教育相談係の場所はどうなるのか。

事務局：現在と変わらない。

B委員：カウンセリングルームは義務教育のお子さんだけを対象にするのか。

事務局：基本的には年齢制限はしないが、より適切な部署があれば紹介することもある。

B委員：大学生にも不登校、引きこもりがあり、カウンセリングルームもある。相談先が違うことでよいきっかけになる場合もあるので、紹介できればよいと思う。

事務局：高等学校とも連携しなければならない。大学生の不登校について保護者からの相談が実際あるし、支援が必要と考える。問題が多様・多岐にわたるため、実践しながら行政になにができるか考えていきたい。

F委員：人員は増となるのか。業務内容は増えると考えるが。

事務局：自殺対策と引きこもり対策の部分は人員増となる。早期療育と教育相談は現行のままとする。

F委員：相談員の個人の力量や相性による部分を感じる。人員の量・質ともに充実をお願いしたい。

事務局：市役所なので人事異動などもある。しかし、医療関係の方より、相談者は建物に行くのではなく、カウンセラーに会いに行くので、安易な人事異動をしないようにとの要望があった。応えられるよう人事と相談している。

F委員：コーディネーターの役割が大切と考える。

事務局：その通りである。

<拍手による承認>

Vその他

B委員：来年度大学同窓会20周年となる。工科大OB・OGに科学の祭典スタッフとしての参加をお願いすることも可能かもしれない。

G委員：部活が教職員の負担になっているという世論がある。地域には、スポーツ経験のあるシニアの方がたくさんいる。そのような方を活用し、先生方の負担を減らすこともよいと考える。先生方と地域が協力して子どもたちを導いていきたい。

事務局：教育相談が教育委員会から離れることに不安感があるかとも思うが、子どもの問題は市全体で取り組む課題であるという考えによる機構改革である。新市庁舎の建設関係もあり、暫定的な部分もある。博物館がリニューアルする。柏崎学やキャリア教育については、博物館や図書館から職員が参加することで、教員の負担を減らすことを考えている。また、新潟産業大学柏崎研究所には柏崎学に特化し、教育支援をお願いできるよう依頼している。柏崎工業高校がキャリア教育の実績がある。連携をお願いしている。

H委員：8月にPTA全国大会があります。ご協力をおねがいします。

閉会のあいさつ